

「三宝通信」法話

浄土宗 天上山大念寺
住職 大島 祥明



あせらず あわてず あきらめず
うろたへ、うろたへ

いまの社会、忙しさに追われ、なかなか立ちどまって自分を見るゆとりがありませんね。そして、みんなが不安でいます。心が不安なら、どんなところにいても、いくらお金があっても、地位があっても、権力があっても不安のままです。安心があれば、必要最低限のものがあればいい、日々、食べていければいいという生き方になります。

人生における安心とはなんでしょうか。それは、私というものは死んでも無にならない、自分という存在はありつづけるといふことなんです。そこがわかると、安心を得られるのではないのでしょうか。

あせらず あわてず あきらめず とにかく、

うろたへ

これが、私のモットーです。

人間というものは、自分でこれでもう限界だと思っても、退かないで進んでいくと、その何倍もできるものなんです。

私は、六十までは修行、六十過ぎてからがほんとうのスタートと決めていました。六十から、ほんとうに自分がやりたいことの仕上げに入っていくこと。

そして、自分自身が経験で得たものを伝えていくことが大切ですね。

お釈迦さまご自身も、こう述べています。

「伝承によるのではない。まのあたりに体得される安らぎを、あなたに説くのである」(スッタニパータ)

言い伝えや知識でつかんだものではなく、自分自身が体験したもの、体得した安らぎを、伝えていきたいものです。

●PHP研究所刊『死んだらおしまい、ではなかった』より。